

JAC AWARD（ベストプラクティス部門）をいただいて

電通クリエイティブキューブのプロダクションマネージャー稲田翔です。

昨年、JAC AWARD に新設された「ベストプラクティス」部門でグランプリをいただきました。大規模案件～小規模案件まで担当している中で、いつも予算が厳しい案件は PM としてアイデアが求められ、試練が多いような気がしていました。

この部門はそんな試練を評価してくれる賞です。

応募した作品は MV のアニメーション作品なのですが、低予算ということもあり、アニメーション会社に発注することが難しかったため、SNS で話題の作家を調べ、直接問い合わせ、監督に提案してアサインしました。

アニメーションの制作進行も自ら行い、各作家の進捗がアップされる度に自身で編集を行い、監督チェックすることで、監督とアニメーターの方向性のズレが生じないようにしました。

作品は現在 5000 万回再生の大バズりで、自分が見つめてきたアニメーターが起用されたことからクリエイティブに貢献できたと自負しています。

なので、応募する際はスラスラと応募資料を作成することが出来ました。

以前勤めていた会社は低予算案件が多く、制作(稲田)、衣装(稲田)、美術(稲田)、車両(稲田)という案件も多かったので経験が活かされたのかもしれないです。

最終審査会では普段関わりのない他プロダクション PM の自己 PR 映像を見て、とても刺激になりましたし、映像制作欲はかなり上がりました。

それだけで参加する価値があると思っています。

また PM が個人的な賞をいただく機会はあまりないので、こういった賞を受賞できたことはやる気に繋がり、「自信」になりました。映像制作人生の自慢の 1 つであることは間違いありません。

受賞後はクリエイティブ、監督、実家だけでなく、営業部長、照明技師、録音部、など各方面から「稲田君、グランプリおめでとう」とご連絡をいただきました。

これまで数回しか話したことがない方からも声をかけていただいたりと、JAC AWARD は業界で注目されている上、色んな人に知ってもらえる機会となり嬉しく思います。

よくこの業界に入ると「人との繋がりが大事」と先輩から言われますが、

改めて、これからも人との関係性を大事にしていきたいと思いました。

僕はまだプロデューサーではないですが、この後仕事が来たことも想像しました…(笑)

今後は言わずもがなですが、より予算が厳しい案件が増えていくかと思います。
ただ予算がないからこそ我々PMの腕の見せ所で、P、PMの創意工夫が映像に表れます。
「ベストプラクティス部門」はそんな我々のクリエイティビティを評価してくれる賞です。
皆さんが普段から当たり前に行っていることが他の人からみたら工夫かもしれません。
自信作と共に是非、応募してみてください！

ちなみに受賞すると会社でのあだ名は「グランプリ」になります(笑)

電通クリエイティブキューブ

稲田 翔